

6

古代から中世へ、鎌倉幕府の成立(1)

学習1 武士の登場

- 10世紀ごろから各地の豪族が武装し、土地をめぐる争いがありました。武芸を身につけ、朝廷や貴族の護衛をする者が現れ、**武士**とよばれるようになりました。関東で平将門が、西日本で藤原純友が反乱を起こしましたが、それらを鎮めたのも武士たちでした。
- 力のある武士を中心に**武士団**がつけられました。天皇の子孫を統率者(棟梁)とする**源氏**と**平氏**は、有力な武士団でした。
- 東北地方で起こった安倍氏や清原氏の反乱を源義家が鎮めました。その後、東方地方では奥州藤原氏が勢力をのばしました。

学習2 院政と平氏政権

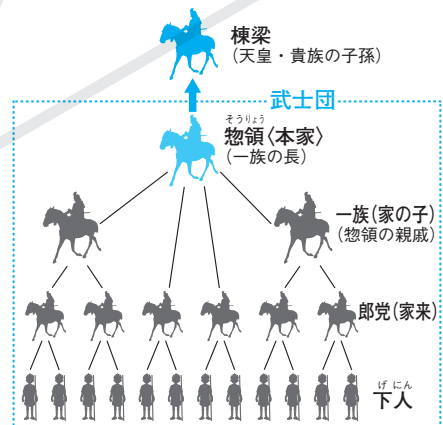
- 藤原氏と血縁関係のうすい後三条天皇が即位すると、摂関政治の力が弱まりました。白河天皇は11世紀末に退位して上皇となっても、政治の実権を握り続けました。上皇やその住む御所を院とよんだことから、この政治を**院政**といいます。
- 地方の武士は、税を逃れるために貴族や寺社(荘園領主)に土地を寄進して**荘園**とし、自ら荘官となり土地の管理を任せられました。
- 12世紀半ばになると、天皇と上皇の対立や近臣の対立によって保元の乱と平治の乱が起こりました。この2つの乱に勝利した**平清盛**は、後白河上皇に重く用いられ、武士として初めて、朝廷の最高の役職である太政大臣になりました。
- 清盛は兵庫の港を整備し、**日宋貿易**を行いました。一方で、自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた子を天皇にするなどして思うままに政治を行うようになり、武士たちの不満が高まりました。

学習3 鎌倉幕府の政治

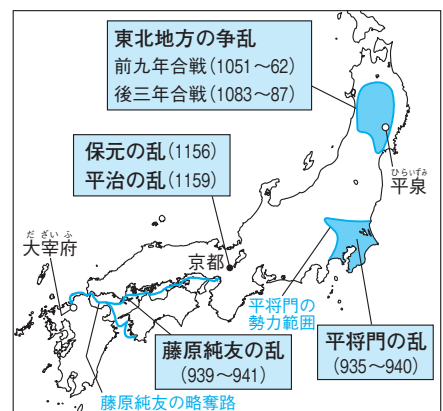
- 清盛が後白河上皇と対立すると、**源頼朝**らが挙兵し、源平の争乱が始まりました。1185年に、頼朝の弟の源義経が壇ノ浦(山口県)で平氏をほろぼしました。
- 平氏の滅亡後、頼朝と義経の対立が深まりました。義経は挙兵し、法皇も頼朝討伐を命じました。
- 頼朝は軍を送って法皇にせまり、義経を捕らえることを名目に、部下である**御家人**を、各地の守護や地頭として置くことを認めさせました。また頼朝は、義経をかくまったとして、奥州藤原氏をほろぼしました。

時代	年代	できごと	中国
平安時代	935	関東で平将門の乱	五代
	939	瀬戸内海で藤原純友の乱	
	1051	前九年合戦が起こる	
	1083	後三年合戦が起こる	宋
	1086	白河上皇が院政を始める	
	1156	保元の乱が起こる	
1159	平治の乱が起こる		
1167	平清盛が太政大臣になる		
1180	伊豆で源頼朝が挙兵する		
鎌倉時代	1185	壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる	元
	1185	源頼朝が守護・地頭を設置	
	1192	源頼朝が征夷大將軍になる	
	1219	源実朝が殺される	
	1221	承久の乱が起こる	
1232	北条泰時が御成敗式目を制定		

▼武士団のしくみ



▼各地の争乱



note 守護と地頭

- ・ **守護**…国ごとに置かれ、国の軍事・警備などにあたった。
- ・ **地頭**…荘園・公領ごとに置かれ、年貢の取り立てなどをした。

□頼朝は1192年に朝廷から**征夷大將軍**に任命されました。頼朝は鎌倉に拠点を築いたので、これを**鎌倉幕府**といい、幕府が鎌倉に置かれた約150年間を**鎌倉時代**といいます。

□將軍と御家人の主従関係は**御恩**と**奉公**により成り立っていました。

note 御恩と奉公

- ・ **御恩**…將軍は御家人の領地を公認して保護し、手柄に応じて新たな領地や職をあたえる。
- ・ **奉公**…御家人は都の警備をし、戦いに命がけである。

□頼朝の死後、幕府の実権は頼朝の妻の北条政子と、その父の北条時政がにぎりました。**北条氏**は、將軍を補佐する**執権**という地位について政治を行いました。これを**執権政治**といいます。

□1221年、後鳥羽上皇は朝廷の権力を回復するために挙兵しました。しかし、上皇は幕府軍に敗れ、**隠岐**(島根県)に流されました。これを**承久の乱**といいます。この乱ののち、幕府は朝廷を監視するために京都に**六波羅探題**を置きました。

□北条泰時は、御家人に関する裁判を公平に行うための基準や守護・地頭の役割を**御成敗式目**に定めました。

学習4 文化・宗教・生活

□京都には荘園領主らが住み、全国の荘園から**年貢**や各地の特産品が集まる経済の中心地、鎌倉は武家政治の中心地でした。

□荘園領主と地頭から二重の支配を受ける農民もいました。

□農作業では牛や馬が利用されるようになり、**二毛作**が広まりました。また、桑・漆・茶などの**商品作物**の栽培が始まりました。

□寺社の門前などでは**定期市**が開かれ、市では**宋銭**が使われました。

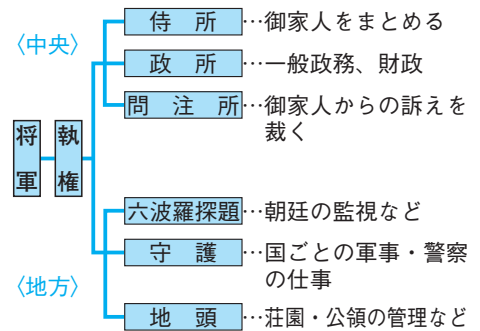
□文学では、合戦のようすをえがいた軍記物語がつけられました。

□武士が活躍したことは文化にも影響を及ぼしました。東大寺の南大門に置かれた、運慶や快慶らによって彫られた**金剛力士像**には武士の力強さが表現されています。

□戦乱により社会不安が広がると、心の支えとして、新たな仏教が広まりました。**法然**は**浄土宗**を、法然の弟子の**親鸞**は**浄土真宗**(一向宗)を、**一遍**は**時宗**を、**日蓮**は**日蓮宗**(法華宗)を開きました。

□**栄西**や**道元**は、座禅によってさとりを開く**禅宗**を伝え、栄西は**臨濟宗**を、道元は**曹洞宗**を広めました。

▼鎌倉幕府のしくみ



▼中尊寺金色堂

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

※奥州藤原氏が平泉(岩手県)に建てました。

▼御成敗式目(貞永式目) (一部要約)

- 一 諸国の守護の仕事は、御家人の京都を守る義務を指揮・催促すること、謀叛や殺人などの犯罪人の取りしまりである。(第3条)
- 一 地頭は荘園の年貢をさしおさえてはいけない。(第5条)
- 一 20年以上継続してその土地を支配していれば、その者の所有になる。(第8条)

▼鎌倉時代の文学

- 『**平家物語**』…琵琶法師によって語られた軍記物。
- 『**新古今和歌集**』…藤原定家らが編集した和歌集。
- 『**方丈記**』…鴨長明の随筆集。
- 『**徒然草**』…兼好法師の随筆集。

確認問題

●一問一答● 次の問いに答えなさい。

学習1

□(1) 武装した各地の豪族や有力な農民のうち、武芸を専門とするものは何とよばれていたか。(1)

□(2) (1)の棟梁として、多くの武士団を支配した勢力は、平氏ともう1つは何氏か。(2)

□(3) 平安時代の後半に、岩手県の平泉を中心に栄えた東北地方の豪族は何氏か。中尊寺金色堂に一族の繁栄があらわれている。(3)

□(4) 白河天皇が上皇となったのちも、院とよばれる御所で行った政治を何というか。上皇やその住まいのことを院とよんだ。(4)

学習2

□(5) 武士としてはじめて太政大臣となり、貴族にかわって政権を握った人物はだれか。保元の乱、平治の乱で対立勢力を一掃し武家政権を打ち立てた。(5)

□(6) (5)が中国で行った貿易を何というか。瀬戸内海の航路を整え、兵庫の港(大輪田泊)を整備した。(6)

□(7) 源頼朝の挙兵後、頼朝と主従関係を結んだ武士を何というか。(7)

□(8) 国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事にあたった役職を何というか。源義経を捕らえる口実で設置された。(8)

□(9) 公領や荘園におかれ、年貢の取り立て、土地の管理、治安の維持にあたった役職を何というか。(9)

学習3

□(10) 鎌倉に幕府が置かれていた時代を何というか。源頼朝は1192年に征夷大將軍に任じられた。(10)

□(11) (7)たちが將軍に対して忠誠をちかい、「いざ鎌倉」というときに一族を率いて戦いに参加することを何というか。(11)

□(12) 源頼朝の死後、鎌倉幕府の実権をにぎった北条氏の政治を何というか。北条氏は頼朝の妻政子の実家。(12)

□(13) 後鳥羽上皇が、幕府をたおそうとして兵をあげたが、幕府の大軍に敗れ隠岐に流された。この乱を何というか。(13)

□(14) (13)の乱のあと、朝廷を監視し、西国の支配にあてるため、京都に置かれた役所を何というか。北条氏一門がその役職についた。(14)

□(15) 1232年、北条泰時が裁判の基準を示すための法律をつくった。この法律を何というか。のちに室町幕府や戦国大名による武家法の手本となった。(15)

学習4

□(16) 鎌倉時代に広まった、裏作に麦を栽培する農業を何というか。春から秋にかけて稲作を行い、冬に小麦を裏作として栽培した。(16)

□(17) 鎌倉時代に琵琶法師によって広められた軍記物語は何か。(17)

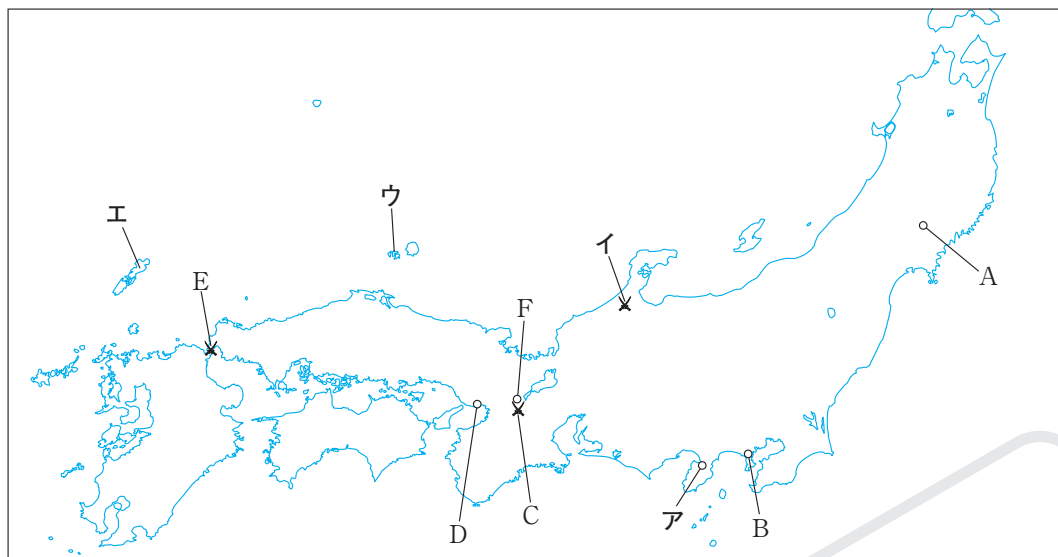
□(18) 鎌倉時代の末期に、吉田兼好が書いた随筆集は何か。『枕草子』・『方丈記』とならんで日本古典文学の三大随筆にあげられる。(18)

□(19) 「阿弥陀仏を信じて自分の罪を自覚した悪人こそが救われる」と親鸞が説いた仏教の宗派を何というか。(19)

□(20) 宋から伝わった仏教の宗派で、座禅によって自分でさとりを開くことを目的とする宗派を何というか。栄西は臨済宗、道元は曹洞宗を開いた。(20)

基本問題

1 次の地図を見て、あとの問いに答えなさい。



1

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	①
	②
(7)	①
	②

- (1) Aを拠点にして権力をふるい、中尊寺金色堂を建立した氏族の名を答えなさい。
- (2) 幕府が置かれたBの地名を答えなさい。
- (3) Cの場所で起こった平治の乱で、平清盛に敗れた人物はだれか。次のア～ウから選びなさい。
ア 源義朝 イ 平将門 ウ 後鳥羽上皇
- (4) Dは、平清盛が整備した大輪田泊があった場所である。この港で清盛が貿易を行った中国の王朝名を答えなさい。
- (5) Eは、平氏が滅亡した場所である。この地名を答えなさい。
- (6) Fには、承久の乱後に置かれた幕府の役所がある。次の問いに答えなさい。
- ① その役所名を書きなさい。
- ② その役所の仕事を、次のア～ウから選びなさい。
ア 朝廷の監視と西日本の武士の統制
イ 年貢の取り立て
ウ 荷物の運送
- (7) 次の①・②の場所を、地図中のア～エからそれぞれ選びなさい。
- ① 平治の乱で源頼朝が流された場所
- ② 承久の乱で後鳥羽上皇が流された場所

2 右の資料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 資料の①にあてはまる人物はだれか。
- (2) 資料の②にあてはまる語句で、将軍と主従関係を結んだ御家人が都の警備につとめ、戦いに命がけであったことを何というか。
- (3) 資料の言葉はだれが話しているか。次のア～エから選びなさい。
ア 北条政子 イ 北条泰時
ウ 源実朝 エ 源義経

さあ侍ども、たしかに聞け。日本国の侍は、昔は3年のあいだ京都の守りにつくことを一生のだいじと思ひ、一族・郎党まで晴れやかに出発したが、3年の京生活に力つき、国に下るときははだしでやっと帰ってきた。それを(①)殿どのがあわれに思われて、3年を半年に縮めてくださったので、みな喜んだものだ。この御恩を忘れて、このたび京方につくか、将軍に(②)するか、今はっきり言いきってみよ。

2

(1)	
(2)	
(3)	

練習問題

1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

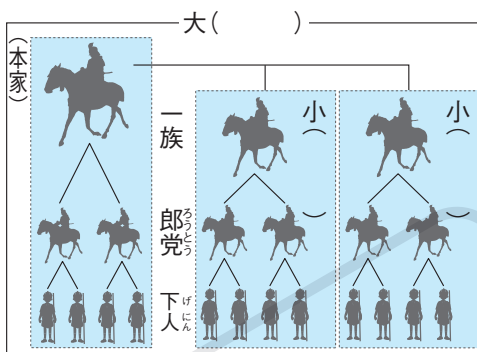
10世紀に入ると、貴族や寺社、地方の豪族は私有地(荘園)を広げていった。11世紀半ば過ぎになると、国司の税の取り立てからのがれるために、藤原氏などの貴族や大寺社に所有者になってもらい、持ち主自らは荘官となって、私有地を支配していった。そして、所有する土地を守るために、武芸を身につけ、戦いを職業とする武士が育ってきた。

(1) 下線部について、次の問いに答えなさい。

□① 武士は地方で、右の図のような集団をつくっていた。図の()にあてはまる、このような集団を何というか。

□② 天皇や貴族の子孫で右の図の集団のかしらを何とよぶか。

□③ 右の図の集団の中で、天皇の子孫といわれるのは源氏と何氏か。

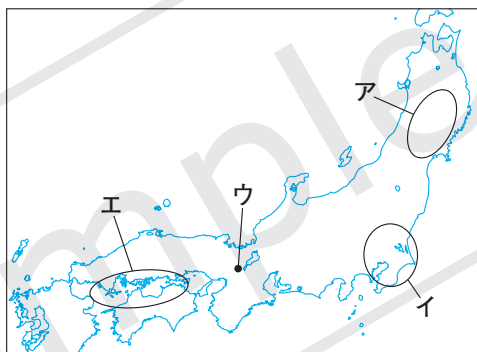


□(2) 次のア～ウから鎌倉時代の武士にあてはまるものを選びなさい。

- ア 都の貴族に仕えて、護衛にあたった。
- イ 国司に任命されて地方を治めた。
- ウ 租・調・庸がかけられた。

□(3) 次のA、Bの乱が発生した地域を、右の地図中のア～エから選びなさい。

- A 平将門の乱
- B 藤原純友の乱



2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

11世紀中ごろ、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が位に就くと、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。そして、次の白河天皇は、^a位を皇子にゆずって、(①)となったのちも政治を行った。12世紀半ばになると、天皇家や藤原氏の争いなどが起こった。^b保元の乱では(②)や(③)を味方につけた後白河上皇が勝利した。こうしたことから武士は武力で争いを解決し、地位を高めていった。

□(1) 文中の①にあてはまる語句は何か。

□(2) 文中の②・③にあてはまる人物を次のア～エから選びなさい。

- ア 平清盛
- イ 源義朝
- ウ 後三条天皇
- エ 白河天皇

□(3) 下線部^aの政治を何というか。

□(4) 下線部^bの3年後、後白河上皇の政権内で起こった対立を何というか。

(5) (4)の戦いに勝ち、太政大臣となった人物について、次の問いに答えなさい。

□ⓧ この人物が大輪田泊を整備して行った貿易を何というか。

□Ⓨ **表現力** この人物は、どのような方法で政治の実権を握るようになったか。「娘」と「天皇」という語句を使って説明しなさい。

1

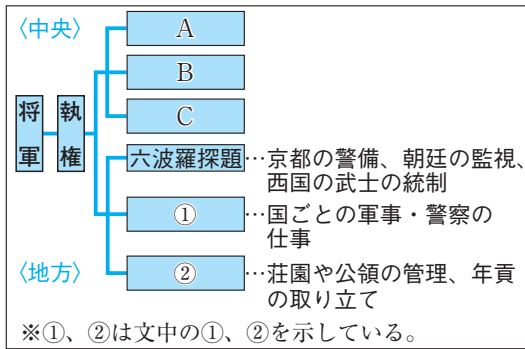
(1)	①	
	②	
	③	
(2)		
(3)	A	
	B	

2

(1)		
	②	
	③	
(2)		
(3)		
(4)		の乱
	ⓧ	貿易
(5)	Ⓨ	

③ 次の文を読み、右の図を見て、あとの問いに答えなさい。

源平の内乱の間、鎌倉で指揮をとっていた源頼朝は、武家政治のための実際的で簡素なしくみを整えて、朝廷にせまり(①)・(②)を置くことを認めさせた。その後、頼朝は、征夷大將軍に任じられ、鎌倉に初の武家政権を成立させた。頼朝は、^a御家人に^b新しい領地をあたえ、そのかわりに將軍のために働くことを誓わせた。



- (1) 文中と図中の①・②にあてはまる語句は何か。
 (2) 図中のA～Cにあてはまる語句を、次の文をふまえて答えなさい。
 A 御家人の統率、軍事と警察の仕事をした。
 B 一般の政務や財政の仕事をした。
 C 訴訟や裁判の仕事をした。
- (3) **表現力** 下線部^aはどのような人々か。簡潔に説明しなさい。
 □(4) 下線部^bについて、奉公に対して、將軍が御家人の領地を公認・保護することを何というか。

(1)	①	
	②	
(2)	A	
	B	
	C	
(3)		
(4)		

④ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

頼朝の死後、幕府の実権は(①)という地位についた北条氏の手に移った。この後、3代將軍が暗殺され、これを政権奪回の好機とみた^a(②)上皇は、1221年、北条氏を討つ命令を全国に下したが、幕府の大軍の前に敗れた。また、1232年、北条泰時が、武士の社会の慣習に基づいて、御家人に対してつくった裁判の基準を示すための法律は、その後、長く武士の政治のよりどころとなった。

- (1) 文中の①・②にあてはまる語句は何か。
 (2) 下線部^aについて、次の問いに答えなさい。
 ① 下線部^aの事件を何というか。
 ② 下線部^aのあと、朝廷の監視のために、京都に置かれた役所を、次のア～エから選びなさい。
 ア 問注所 イ 六波羅探題 ウ 守護 エ 大宰府

(1)	①	
	②	
(2)	①	
	②	

⑤ 鎌倉時代の文化や宗教、生活について、次の問いに答えなさい。

- (1) 右の資料は、鎌倉時代に人々に親しまれた作品の冒頭である。この作品名を答えなさい。
 □(2) 各地をまわって、右の資料の作品を武士や民衆に広めた人のことを何というか書きなさい。
 □(3) 戦乱や天災、貴族の没落などから世のはかなさを書いた随筆『方丈記』の作者はだれか書きなさい。
 □(4) 藤原定家らが編集した和歌集を何というか書きなさい。

祇園精舎の鐘の聲、
 諸行無常の響きあり。
 沙羅双樹の花の色、
 盛者必衰のこころをあらわす。
 おごれる人も久しからず、
 ただ春の夜の夢のごとし。
 たけき者もついにほろびぬ、
 ひとえに風の前の塵に同じ。

(1)	
(2)	法師
(3)	
(4)	